

平成25年度 南三陸地区協働教育研修会

平成25年9月25日（水）に、気仙沼市はまなすの館「はまなすホール」を会場に、南三陸地区協働教育研修会を開催しました。

この研修会は、「社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体で育むために、地域と学校をつなぐ仕組みをつくり、家庭・地域と学校が協働した教育活動を展開し、地域教育力の向上と学校教育の充実を目指すこと」を目的に開催されています。

本年度は、フリーアナウンサー・タレントとして活躍し、県内各地取材することによって地域の活動や人々の暮らしに精通している渡邊勝彦氏を講師に迎え、「子どもたちに伝えたい知識と知恵 そして未来」と題して講話（特別講演）をしていただきました。また、地域と学校の協力・連携による協働教育の事例として、南三陸町立戸倉小学校の取組を同校教諭・市村俊幸氏に発表していただきました。

渡邊氏のことばには、未来をつくる子どもたちに対して、大人として何をすべきかを考えるヒントが詰め込まれていました。また、震災により地域の人達がばらばらに暮らすことを余儀なくされている中で、今もなお、地域の方々の協力により学校と地域が連携した取組が行われている戸倉小学校のすばらしい取組が紹介されました。

参加者からは、「学校だけで子どもたち教育するということには限界がある。学校・地域・家庭が連携しなければならない。そのヒントをこの研修会でもらった気がする。」との声がありました。

講話（特別講演）◎ 演 題 「子どもたちに伝えたい知識と知恵 そして未来」

◎ 講 師 フリーアナウンサー・タレント 渡 邊 勝 彦 氏

震災直後、消防・警察・大勢のボランティアの方々による支援がされ、被災地にとって心を打たれる活動をしてくれました。今、仮設住宅で生活をしている人はたくさんいますが、彼らのためにこれから活躍するのは教育に関係する人たちだと思います。5年後・7年後に傷を負った子が出現します。今頑張っている父母の姿を見て育っている子ども達です。その子ども達のために何ができるのか。それは、寄り添うことです。

気仙沼・南三陸地域は世界が注目しています。これほどインフラが整備された中でこのほどの災害は世界で初めてです。日本だからこそできる子どもたちへの教育と記録の累積が大切だと思います。今の状況から復興に向けて、その担い手を育てていくことをお願いします。



管内の事例

◎ 「子ども達を育てる学校と地域が連携した取組」

～ふるさと教育・郷土芸能の伝承を通して～

◎ 南三陸町立戸倉小学校 教諭 市村 俊 幸 先生

地域の方々の協力により、1～6年生までの全ての学年で行われている地域を題材とした学習は、子ども達の貴重な体験や学習の場になるとともに学校を拠点としての地域コミュニティづくりに大きな役割を果たしている。また、本校の取組は宮城県で掲げている「志教育」にもつながるものであると考えている。

地域との協働を通して、様々な方々と「かかわり」その体験を通して感じ取ったことからよりよい生き方を「もとめ」、地域の中で自分の役割を考えその役割を「はたす」という気持ちを育てていくことは、これからの戸倉地区の復興を担う子ども達にとってとても大切なことであるとする。



今後も、地域や子ども達の10年・20年後を見据えた教育活動が展開できるよう協働教育に取り組んでいきたい。